

令和7年度第2回奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会議事概要

開催日時 令和7年8月15日（金）13:00～14:30

開催場所 奈良県庁本庁舎（主棟）5階 第一会議室

出席者

（委員）垣内委員長、竹田委員、任委員、町田委員、松村委員

（法人）上野法人企画部次長、華学財務企画課長補佐、その他医科大学職員

（事務局）中岡医療政策局次長、瀬尾病院マネジメント課長、西川病院マネジメント課長補佐、
その他病院マネジメント課職員

議題

第3期中期目標期間の業務の実績に関する評価について

公開・非公開の別

公開（傍聴者0人、報道関係者 0人）

議事内容

- ・事務局より「参考資料1・2」に基づき、第3期中期目標期間の業務の達成状況に関する委員評価の状況について説明
- ・事務局より「資料1」に基づき、評価結果（案）について説明

（1）第3期中期目標期間の業務の実績に関する評価について

項目別評価及び価値目標項目別評価について

I 地域貢献〈教育〉については各委員意見なし

I 地域貢献〈研究〉については各委員意見なし

I 地域貢献〈診療〉について

[松村委員]

資料1 15 ページ 価値目標7について、「臨床研究支援体制の確立」は、達成までに非常に時間がかかる目標である。臨床研究件数等目標に足りていない部分もあり、目標に対する評価としてはあまり良い結果にならなかったが、実際の中期目標期間中の取組としては、承認を得るまでの過程として非常に意味のあるものであったと思う。

II 教育については各委員意見なし

III 研究について

[松村委員]

資料1 21 ページ 価値目標 14 の「女性研究者数（医学科女性教員割合）の増加」については、母数となる女性医師数（医学科女性医師割合）がわからないが、男性医師の研究者になる率以上に女性医師の研究者になる率を引き上げるのは合理的な目標とはならないことに注意すべきだと思う。

IV 診療について

[任委員]

資料1 25 ページの課題について、「専門性の高いスキルを有する看護師は…」という記載は、認定看護師だと誤認されてしまう可能性がある。「特定行為研修修了者等の専門性の高いスキルを有する看護師は令和6年度には38人（令和元年度：8人）と着実に増えており、認定看護師教育課程への志願者も増加している。」という記載にしてはどうか。

[事務局]

ご指摘のとおり修正させていただく。

[松村委員]

資料1 26 ページ「認定看護師数の増加」について、資料1 9 ページ「特定行為研修を修了した看護師数の増加」など、似ている実現目標があるが、項目が分かれているのはなぜか。

[医大]

特定行為研修は医大において開講している。医大の看護師だけではなく他の病院からも受講されるため、「特定行為研修（急性期コース）を修了した看護師数の増加」は地域貢献（教育）の実現目標としている。26 ページについては、医大の看護師のうちの認定看護師等の人数についての目標のため、病院機能の充実の一環として診療の項目としている。

V 法人運営について

[松村委員]

資料1 28 ページの価値目標 18 「ガバナンス体制の確立」19 「医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立」について、見込評価を含め過去評価はほぼA評価であるのに、今回の最終評価ではB評価となっている。

[町田委員]

見込評価の際の考え方と、最終評価の際の考え方が異なるためこのようなことが生じていると考えられる。第4期中期目標では、見込評価の時点で最終評価を見据えた評価方法を検討すべきだ。

全体評価について

[町田委員]

資料1 4～5ページについて、新型コロナウイルス感染症の動向に対応した取組が挙げられており、現在も継続している取組について波線が引かれているが、一部は新型コロナウイルス感染症拡大前の取組が元通りになっただけのようなものも見受けられる。

[松村委員]

新型コロナウイルス感染症の動向に対応した取組が現在も継続されているかどうかは、評価委員会が評価する際に必要な情報ではないように感じる。

[町田委員]

波線箇所は現在も継続して取り組んでいる部分を示していると思うが、評価とは違う観点になると思う。

[事務局]

3ページの括弧内の注釈と4～5ページの波線表示は削除する。

[松村委員]

今回の評価はあくまで目標に対する評価であり、医大に対する絶対的な評価ではないことをご理解いただきたい。例えば、Ⅱ.教育については、項目別評価がⅢではあるが、『心の教育』を軸とした『良き医療人』の育成』を目標に掲げ、様々な取組を実践されていることは素晴らしいことである。

[垣内委員長]

教育は定性的な実現目標が多く、評価をつけるのは難しい。

第4期中期目標では、他大学との横並びも勘案して、相対的な評価を行えると良い。

[任委員]

医大としては、大学院看護学研究科の博士課程を新設されるなど素晴らしい取組をされているのにも関わらず、既存の目標に従って評価するしかないため、新しい取組への評価が難しかった。